

第 14 課

<目標> 簡単な指示、依頼、申し出ができる。今していることが言える。
※動詞のグループ分け、「テ形」を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. テ形の作り方

2. 問題を よんで ください。 ※指示
すみませんが、塩を とって ください。 ※依頼
どうぞ たくさん たべて ください。 ※勧め

[V] て ください。
(テ形)

3. てつだいしましょうか。

[V (～~~ます~~)] しましょうか。

※申し出

4. ミラーさんは 今 レポートを よんで います。

[人] は 今 [V] て います。
(テ形)

※現在進行形

<ノート>

◎動詞のグループ分け

I グループ (五段活用)

「ます」の前が「i」 例) 買います kaimasu、行きます ikimasu

II グループ (下一段活用)

「ます」の前が「e」 例) 寝ます nemasu、食べます tabemasu

★スペシャル II グループ (上一段活用)

「ます」の前が「i」 だけど II グループ

例) います imasu、見ます mimasu、起きます okimasu

III グループ (カ行変格活用、サ行変格活用)

「来ます」「します」「[N] + します」 例) 勉強します

◎テ形の導入

「テ形」の導入によって、「動詞のグループ分け」が発生してくる
「テ形」を教える順番は「II → III → I」

作り方

II グループ: 見~~ます~~ → 見て 食~~べます~~ → 食べて
(「ます」を取って、「て」を付ける)

III グループ: 来~~ます~~ → 来て し~~ます~~ → して 勉強し~~ます~~ → 勉強して

I グループ: 歌を歌う?

① ～います、～ちます、～ります → ～って
例) 会います → 会って、待ちます → 待って、帰ります → 帰って

② ～びます、～みます、～にます → ～んで
例) 遊びます → 遊んで、飲みます → 飲んで
*死にます → 死んで (39 課)

③ ～きます → ～いて 例) 書きます → 書いて
※例外: 行きます → 行って

④ ～ぎます → ～いで 例) 泳ぎます → 泳いで

⑤ ～します → ～して 例) 話します → 話して

◎「[V] てください。」の用法
 練習 A2：①指示 ②依頼 ③勧め

- ・ 答え方を確認
 指示：名前を書いてください。…はい、わかりました。
- 依頼：すみませんが、塩をとってください。…はい、どうぞ。
 すみませんが、この漢字の読み方を教えてください。(例文 2)
 …いいですよ。
- 勧め：どうぞ食べてください。…ありがとうございます。

◎申し出
 練習 A3：[V (～ます)] でしょうか。
 ・ 形の作り方：動詞の「ます」を取って、「でしょうか」を付ける
 ・ 答え方を確認
 <申し出を受け入れる場合>
 例文 3：窓を開けましょうか。…すみません、お願いします。
 練習 B4 例 1：電気を消しましょうか。…ええ、お願いします。

<申し出を断る場合>
 例文 4：駅まで迎えに行きましょうか。
 …タクシーで行きますから、けっこうです。
 練習 B4 例 2：塩を取りましょうか。…いいえ、けっこうです。

◎進行中を表す「～ている」
 練習 A4：[人] は 今 [V] て います。
 例文 6、練習 B7 (6)：雨が 降っていますか。

「～ている」の意味

	例	ル形	テイル形	時間の流れ
状態動詞	いる、ある、	現在の状態	×	
継続動詞	食べる、読む、	未来	進行中	ル形⇒テイル形 ⇒タ形
瞬間動詞	立つ、落ちる、 知る	未来	動作が 終わった 後の結果 の状態	ル形⇒タ形 ⇒テイル形
第 4 種の 動詞	曲がる、 そびえる、	×	状態	※連体修飾で タ形になる

- その他
- ・ 習慣/繰り返しの「ている」(28 課)
 例) 毎日、図書館で勉強しています。
 - ・ 経験の「ている」
 例) 今まで、TOEIC を 2 回受験しています。

◎新出語彙
 ・ 動詞がたくさん入ってくる
 ※導入するとき、一緒に使う助詞を提示
 例) 「電気を け します」「まどを あ けます」
 「喫茶店に 入 ります」「喫茶店を 出 ます」

- ・ 「～方 (かた)」
 ※ [V (～~~ます~~)] + 方 例) 読み方、書き方、使い方

◎例文 2：「住所」

<会話> 「みどり町までお願いします」

・タクシーに乗って行き方を指示する。

・「～までお願いします。」「あの信号を右へ曲がってください。」

「まっすぐ行ってください。」「止めてください。」「お釣り」

第15課

<目標>許可を求めたり、禁止事項を理解することができる。

身近な話題について話せる。※テ形を使った表現について学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. 鉛筆で かいて もいいですか。

[V] て もいいですか。

(テ形)

※許可を求める表現

※「V てもいいです」→ 許可を表す

※答え方 (練習 B 2)

<許可する場合> 「ええ、いいですよ。どうぞ。」(例文 1)

<許可しない場合> 「すみません、ちょっと…。」(例文 2)

2. お酒を のんで はいけません。

[V] て はいけません。

(テ形)

※禁止の表現

(規則などで禁止されていることに限定して扱う。)

3. わたしは 京都に すんで います。

[人] は [V] て います。

(テ形)

※状態

4. わたしは IMC で はたらいて います。

[人] は [V] て います。
(テ形)

※職業・身分、習慣的行為

<ノート>

◎状態を表す「ている」

・動作が終了した後の、結果の状態を表す

・「持っています」について

文型2:「サントスさんは電子辞書を持っています。」

①今、その場で手に持っている

②所有している

・「知っています」について

例文4:「市役所の電話番号を知っていますか。」

…はい、知っています。(テイル形)

…いいえ、知りません。(マス形の否定)

※誤用例:「はい、知ります。」

「いいえ、知っていません。」

※38 課「来週の金曜日は授業がないのを知っていますか。」

…いいえ、知りませんでした。

※「知りません」「知りませんでした」の違い

<会話>「ご家族は？」

・家族構成や仕事について話す

・「思い出します。」

・「どちらに いらっしゃいますか。」

「いらっしゃいます」は、「います」の尊敬語(49 課)

第16 課

<目標>日常生活の行動を順序に沿って話せる。2つの動作の時間的な前後関係について話せる。人や場所の特徴について話せる。

<練習 A の文型>

1. あした 神戸へ 行って、 えいがを みて、 買い物します。

[V₁] て、[V₂] て、[V₃] ます。
(テ形) (テ形)

※2つ以上の動作が続いて起こるとき、起こった順に述べる。

2. うちへ かえってから、 晩ごはんを 食べます。

[V₁] てから、[V₂] ます。
(テ形)

※2つの動作の時間的な前後関係を表す。

※格助詞「から」: 次の動作への移行

3. カリナさんは せが たかいです。

文型1: 大阪は 食べ物が おいしいです。

[人/N] は [N] が [形容詞] です。

※「XはYがZ。」の構文

※副助詞「は」

※格助詞「が」

4. ミラーさんは わかくて、元気です。 ※「わかい」 イ形
ハンサムで、親切です。 ※「ハンサム」 ナ形
28 さいで、独身です。 ※「28 さい」 N

[人/N] は [イ形 (～~~ㇿ~~)] くて、[形容詞] です。

[人/N] は [ナ形/N] で、[形容詞] です。

※いいです→よくて

<ノート>

◎行動を順序通りに述べる

[V₁] て、[V₂] て、[V₃] ます。

例文 1: 「図書館へ行って、本を借りて、それから友達に
会いました。」

・この課では、比較的短い時間の間に起こることを扱う。

この課ではダメな例)

「2007 年にインドへ行って、2015 年にフランスへ行って、
2018 年に韓国へ行きました。」

◎2つの動作の時間的な前後関係を表す

[V₁] てから、[V₂] ます。

・9 課 (理由の「から」)

「きょうは子どもの誕生日ですから、早く帰ります。」

※「だから」を使って、2つの文に分けることができる。

・16 課 (次の動作への移行の「から」)

「コンサートが終わってから、レストランで食事しました。」

※「それから」を使って、2つの文に分けることができる。

◎①「～て、～て、～ます。」と②「～てから、～ます。」の違い

・①は、_____ ことができる。②は、_____ まで。

・②は、_____ 後で、_____ をすることを
明確に表す。

※34 課「仕事が終わったあとで、飲みに行きます。」

◎「XはYが(主語)Z。」の構文

[人/N] は [N] が [形容詞] です。

練習 A3: カリナさんは せが たかいです。

文型 1: 大阪は 食べ物 がおいしいです。

※「[人/N] は N」の部分を「[人/N] の [N]」と
言い換えることができる。

※9 課「わたしは えいが が好きです。」

対象を表す「が」: 可能(能力)、希望、好き嫌い、上手下手、
感情・感覚などの対象を示す

◎練習 A4 の文型は、形容詞の「テ形」(?)

※「この教室は 明るくて、きれいです。」(○)

「この教室は、暗くて、きれいです。」(?)

◎練習 B4

「もう～ましたか。」…「いいえ、まだです。～てから、～ます。」

※7 課 練習 A6: もう 荷物 を おくりましたか。

…はい、もう 送りました。

…いいえ、まだです。

◎新出語彙

- ・「どうやって」「どの」「どれ」

例文 2：「大学まで どうやって 行きますか。」

例文 4：「マリアさんは どの 人ですか。」

例文 5：「太郎ちゃんの 自転車は どれですか。」

- ・「緑」 練習 B7 例 1：「(奈良は) 緑が多くて、静かな町です。」

- ・「長い」「短い」

よくある誤用例：「背が長い/短いです。」

<会話> 「使い方を教えてください」

- ・使い方の手順が分かる。使い方を人に説明できる。

- ・「お引き出し」「キャッシュカード」「暗証番号」「金額」「確認」

- ・「まず」「次に」(新出語彙)、「それから」(6 課)

第 17 課

<目標> 禁止事項が理解できる。しなければならないこと、する必要のないことについて話せる。※「ナイ形」を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. ナイ形の作り方

2. たばこを すわないで ください。 ※禁止事項・規則＋お願い
傘を わすれないで ください。 ※アドバイス、相手への気遣い

[V] ないで ください。
(ナイ形)

※否定の依頼

3. 本を かえさなければ なりません。
文型 2：パスポートを (見せないといけません。)

[V] なければなりません。([V] ないといけません。)

※義務、自分のノルマなど

4. 名前を かかなくても いいです。

[V] なくてもいいです。

※する必要のないこと

5. レポートは あした 書きます。

[N] は [V] ます。

※副助詞「は」／取り立ての「は」：主題を表す

<ノート>

◎ナイ形の導入

作り方 ※教える順番は「Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ」

Ⅱグループ： 見~~ます~~→見ない 食べ~~ます~~→食べない
（「ます」を取って、「ない」を付ける）

Ⅲグループ： きます→こない し~~ます~~→しない

Ⅰグループ：

- ・「ます」の前の音が「i」→「a」になる
- ・「ます」を取って、「ない」を付ける

行~~き~~ます ikimasu → 行~~か~~ない ikanai

話~~し~~ます hanashimasu → 話~~さ~~ない hanasanai

待~~ち~~ます machimasu → 待~~た~~ない matanai

会~~い~~ます aimasu → 会~~わ~~ない awanai ※会~~あ~~ない ×

◎[V] ないで ください。

①禁止事項、規則＋お願い

文型Ⅰ：「写真を撮らないでください。」

例文Ⅰ：「そこに車を止めないでください。」

②アドバイス、相手への気遣い

例文Ⅱ：「心配しないでください。」

問題Ⅳ Ⅱ）：「この資料は大切ですから、なくさないでください。」

◎「てはいけません」と「ないでください」

「てはいけません」（Ⅰ５課）→禁止事項、規則

「ないでください」（Ⅰ７課）→禁止事項、規則＋お願い

◎[V] なければなりません。

「本を かえさなければ なりません。」

※「V なければなりません」と「V ないといけません」の違い

「明日は、９時までに会社に行かなければなりません。」

「明日は、９時までに会社に行かないといけません。」

「友達が来るので、掃除をしなければなりません。」

「友達が来るので、掃除をしないといけません。」

※「ないと…。」→ⅡⅠ課 会話

「なければいけません」→『中級へ行こう』第Ⅲ課

縮約形：「なくちゃ」「なきゃ」→ 中級

※質問と答え方（練習ⅡⅦ）

例文Ⅳ：「子どももお金を払わなければなりませんか。」

…「はい、払わなければなりません。」

…「いいえ、払わなくてもいいです。」

◎「までに」

例文Ⅴ：「レポートはいつまでに出さなければなりませんか。」

※「まで」（Ⅳ課）と「までに」の違い

・「まで」：動作や状態がある時点までずっと続くことを表す

・「までに」：動作の期限や締切を表す

◎[V] なくてもいいです。

例文Ⅳ：「（お金を）払わなくてもいいです。」

作り方：はら~~い~~ます→はら~~わ~~な（ナイ形）→はらわ~~な~~くても

（ナイ形にする→「ない」の「い」を取って、「くても」を付ける

・する必要のないことを表す

◎主題を表す副助詞「は」

- ・練習 A5:「レポートはあした書きます。」
あしたレポートを書きます。→レポートはあした書きます。
※練習 B8

- ・文型 3:「日曜日は早く起きなくてもいいです。」
日曜日、早く起きません。→日曜日は早く起きなくてもいいです。

◎新出語彙

- ・「ですから」
例文 3:「あしたからホンコンへ出張しなければなりません。
ですから、早く帰ります。」

- ・「それから」
6 課 例文 4:「日本語を勉強しました。
それから友達と映画を見ました。」

17 課 会話:「きょうは薬を飲んで、早く寝てください。」
「それから今晚はお風呂に入らないでくださいね。」

<会話>「どうしましたか」

- ・病院での診察で使える表現。
- ・「どうしましたか。」「のど」「お大事に。」

第 18 課

<目標>趣味、できることについて話せる。時間的な前後関係について話せる。※辞書形を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. 辞書形の作り方

2. ミラーさんは にほんごが 漢字を よむことが できます。

[人] は [N] が できます。
[人] は [V る] ことが できます。
(辞書形)

※格助詞「が」
※能力可能
※動詞の名詞化

3. ここで コピーが 切符を かうことが できます。

[人] は [N] が できます。
[人] は [V る] ことが できます。
(辞書形)

※状況可能

4. わたしの 趣味は スポーツです。
動物の写真をとることです。

わたしの 趣味は [N] です。
わたしの 趣味は [V る] ことです。
(辞書形)

5. ねる まえに、本を 読みます。
 しょくじの まえに、手を 洗います。
 5ねん まえに、日本へ 来ました。

[V る] まえに、[V] ます。 ※文型 3
 (辞書形)

[N] の まえに、[V] ます。 ※例文 7
 [期間] まえに、[V] ました。 ※例文 8

<ノート>

◎辞書形の導入

作り方 ※教える順番は、「Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ」

Ⅱグループ：「ます」を取って＋「る」を付ける
 例) 見~~ます~~→見る

Ⅲグループ：きます → くる、 します → する

Ⅰグループ：「ます」を取る→「ます」の前のイ段をウ段にする
 例) 書~~き~~ます kakimasu → 書~~く~~ kaku

◎可能の表現（3種類ある）

- ① Nができます（18 課）
- ② V ることができます → 動詞の名詞化（18 課）
- ③ 可能形（27 課）

※可能形の作り方

Ⅱグループ：「ます」を取って＋「られます」を付ける
 例) 見られます、起きられます、食べられます
 ※「ら抜きことば」に注意

Ⅲグループ：きます → こられます します → できます

Ⅰグループ：「ます」の前のイ段をエ段にする
 例) 読~~み~~ます → 読~~め~~ます 書~~き~~ます → 書~~け~~ます

◎練習 A5：「ねるまえに、本を読みます。」

・ [V₁ る] まえに、[V₂] ます
 (前件) (後件)

※後件はル形・タ形どちらでも OK なのに、前件はル形のみが OK。

- 例 1) (○) ご飯を食べるまえに、薬を飲みます。
 (○) ご飯を食べるまえに、薬を飲みました。
 (×) ご飯を食べたまえに、薬を飲みます。
 (×) ご飯を食べたまえに、薬を飲みました。

※「V たあとで」→34 課

※後件はル形・タ形どちらでも OK なのに、前件はタ形のみが OK。

- 例 2) (×) ご飯を食べるあとで、薬を飲みます。
 (×) ご飯を食べるあとで、薬を飲みました。
 (○) ご飯を食べたあとで、薬を飲みます。
 (○) ご飯を食べたあとで、薬を飲みました。

・ [V₁ る] まえに、[V₂] ました
 「日本へくるまえに、日本語を勉強しました。」(練習 A5)
 「寝るまえに、宿題をしました。」

※時制の一致は発生しない。

日本語は文末で過去の文か非過去の文かが決まる。
 (時制については 21 課で詳説)

- ・「まえに」と「まえ」の違い
 ①「会議のまえ／まえに、資料をコピーしてください。」
 ②「日本へ来るまえ／まえに、国で働いていました。」
 ③「日本へ来るまえ／まえに、ひらがなを勉強しました。」

※「A まえに B」

→ _____ をしておくことを表す。

_____ を感じさせる表現。

「A まえ B」

→ _____ していたことを表す

◎ix ページの「確認」するとは？

「[V る] まえに、[V] ます。」の確認をやってみましょう！

⇒「〇〇さんは、_____ まえに、_____ ますか。」

◎新出語彙「現金」

例文 4：「カードで払うことができますか。」

「…すみませんが、現金で お願いします。」

※格助詞「で」 手段・道具を表す（第7課）

<会話>「趣味は何ですか」

・趣味に関する会話ができる。

・「なかなか」

・「ぜひ」

第19課

<目標> 経験や状況の変化について話せる。

※「タ形」を学ぶ課。

<練習 A の文型>

1. タ形の作り方

2. わたしは 沖縄へ いった ことがあります。

[V] たことがあります。

(タ形)

※経験を表す

3. 毎晩 テレビを みたり、本を よんだり します。

[V₁] たり、[V₂] たり します。

(タ形) (タ形)

※接続助詞「たり」 動作の列挙

4. テレーザちゃんは せが たかく なりました。 ※イ形容詞

げんきに

※ナ形容詞

10 さいに

※名詞

[イ形 (〜↔)] く なります。

[ナ形/N] に なります。

※状況の変化を表す

※「なります」新出語彙

※「だんだん」新出語彙

「これからだんだん暑くなります。」(文型3)

<ノート>

◎タ形の導入 ※教える順番は、「Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ」

Ⅱグループ：「ます」を取って＋「た」を付ける 例) 見~~ます~~ →見た

Ⅲグループ：きます → きた、 します → した

Ⅰグループ：

- ① ～います、～ちます、～ります → ～った
- ② ～びます、～みます、～にます → ～んだ
- ③ ～きます → ～いた ※例外： 行きます→行った
- ④ ～ぎます → ～いだ
- ⑤ ～します → ～した

◎「Vたことがあります／Vたことはありません」

- ・タ形を使って「経験」を表す
- ・「Vた＋こと＋が＋ある」
- ・紛らわしい表現
 - ▼ タ形＋ことがある＝経験 例)「見たことがある」
 - ▼ 辞書形＋ことがある＝未来に起こる可能性
例)「来ることがある」
- ・例文2：「いいえ、一度もVたことはありません」
全否定の言い方

◎「V₁たり、V₂たり します」

- ・動作の列挙を表す表現
 - ・「～たり、～たり」は2つだけとは限らない
 - ・「～たり、～たり」には慣用表現がある
 - ① 繰り返しを表す：とんだりはねたり、行ったり来たり、
 - ② 対になる言葉：泣いたり笑ったり、歌ったり踊ったり、
 - ③ 反対語：押したり引いたり、開けたり閉めたり、
- ※この課では「動作の列挙」のみ。慣用表現は入れないこと。
※2度目の「たり」を省かないこと。
(○) VたりVたりします (×) VたりVます

※「V₁たり、V₂たり したいです」

例文4：「旅行したり、お茶を習ったりしたいです。」

◎類似文型との違い

例1)

- ・休みの日は 買い物をしたり、映画を見たりします。
- ・休みの日は 買い物をして、映画を見ます。

例2)

- ・朝5時に起きたり、ジョギングしたり、朝ごはんを食べたりしました。
- ・朝5時に起きて、ジョギングして、朝ごはんを食べました。

①「V₁たり、V₂たり します。」

→ _____ 表現。

②「[V1] て、[V2] て、[V3] ます。」

→行動を _____ 述べる。

2つ以上の動作が _____ に使う表現。

◎新出語彙

- ・[山に] 登ります ※格助詞「に」
- ・[ホテルに] 泊まります
- ・[部屋を] 掃除します

<会話>「ダイエットはあしたからします」

- ・過去の経験について話す。
- ・「乾杯」
- ・「でも」